

平成 30 年度
事業報告書

公益財団法人 水産無脊椎動物研究所

平成 30 年度 事業 報告

I. 事業の状況

平成 30 年度の事業は、前年度と同じように、事業計画に従って「助ける」「集める」「広める」事業を行った。

1. 「助ける」研究助成事業

2018 年度の研究助成課題の応募数は、個別研究助成 63 課題、育成研究助成 15 課題、合計 78 課題となった。採択数は、個別研究助成 12 課題（前年度より 3 件増）、育成研究助成 3 課題、合計 15 課題を採択した。4 月初旬、これらについて助成金を交付した。ただし、このうちの 1 件は、研究者逝去により、研究が中止となり残金の返金を受けた。これによりこれまでに助成した累計課題数は 285 課題、助成金額累計は 224,453,000 円となった。

2. 「集める」研究情報・資料・論文の収集、図書交換、学会の聴講等

軟体動物後鰓類(ウミウシ)に関する研究情報の収集は、今年度は総種数で 4786 種(+83 種)、プリント数で 19,319 頁(+201 頁)となった。研究情報を収集するため、日本貝類学会、日本動物分類学会、日本動物学会、日本甲殻類学会の大会、および 2018 年度日本付着生物学会シンポジウムに参加し、新しい研究情報を得て、そのうちいくつかを「うみうし通信」に掲載した。

3. 「広める」研究情報や海の無脊椎動物の知識を普及啓発すること

① 「うみうし通信」

当財団の広報誌であり、博物館・研究所等との交換図書ともなっている。今年度は No. 99~No. 102 までの 4 号を発行した。

印刷部数は 1,500 部、配布部数は 1,100 部、有料配布は「うみうしくらぶ」会員。無料配布は、国会図書館、水産庁、試験研究機関、博物館、水族館、大学、および財団関係者などである。

② 「うみうしくらぶ」

「うみうしくらぶ」の期末会員数は 285 名となり、個人会員 275 名で前年度より 4 名減少(退会 18 名新入 14 名)、法人会員は 10 団体となり、1 団体減少した。年会費収入は 551,990 円、これを受取年会費として収入に計上した

③ 観察会 (5 月 3 日)

第12回「親子で楽しむ海の生き物わくわくウォッチング」を、例年と同じ観音崎自然博物館で開催した。定員を大幅に超える103名の申込みがあったが、当日早朝の悪天候の影響で、当日の参加者は大人42名、子供26名、合計68名となった。博物館の山田和彦学芸部長を中心に河野えり子館長やボランティアの方々とともに実施した。はじめに2班に分かれて、貝についての話を聴講し、海藻のおしばづくりを行い、その後、磯へ移動して海の生き物ウォッチングを行った。博物館の中庭の芝生で昼食をとった後、採ってきた生き物を観察し、観察した生き物についてのまとめをおこなった。

海がやや荒れていたため、観察できた生物は少なかったが、「ウミクワガタ」という甲殻類の仲間を顕微鏡で観察したりと、例年とは違う生き物を見ることができた。また参加者は博物館の展示を見学し、博物館からは子どもたちに貝の標本をプレゼントしていただき、見学会は無事終了した。

④勉強会（5月11日～13日）

「うみうしくらぶ」の会員を対象とした第24回「磯の生物勉強会」は、琉球大学熱帯生物圏研究センターの山城秀之教授にお願いし、沖縄県本部町にある瀬底研究施設にて開催した。参加者は20名（うち事務局2名）で、高校生や大学院生など若手の参加もあった。1日目の集合後、ガイダンスを受けた後、サンゴの分類や体の作りなどの話を聞き、サンゴの白化についても勉強した。1日目の夜は野外の水槽で、サンゴが蛍光に発光することも観察した。2日目には海岸で磯採集を行い、本州では見られないサンゴ礁の生き物を観察し、実験室に持ち帰って同定した。海産無脊椎動物78種（+原生動物2種）が採集・目視観察された。また、サンゴの標本や骨片の観察を行った。夜は懇親会を開き、山城先生の学生も含めて交流をした。普段は見るできないサンゴの生態や形態を知ることができ、充実した勉強会となった。

⑤財団設立30周年記念シンポジウム（9月22日）

財団設立の記念事業として、「サンゴとサンゴ礁の生き物たち」という題でシンポジウムを行った。参加者は150名余りで、学生や研究者、一般と様々な参加者であった。基調講演「サンゴの常識・非常識」を山城秀之氏（琉球大学瀬底臨海研究施設）にお願いし、太田悠造氏（鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館）、岡西政典氏（東京大学大学院理学系研究科附属臨海実験所）、当財団研究員の片山英里、藤井琢磨氏（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室）の順で、サンゴ礁の生き物たちについての話をした。総合司会は、椿玲未氏（東京大学総合研究博物館）にお願いし、進行いただいた。

演者の太田氏、岡西氏、藤井氏、片山、司会の椿氏の5名は若手研究者であり、活発な雰囲気でのシンポジウムを行うことができた。それぞ

れが研究している生物について、形態や生態などの「生き物そのもの」にフォーカスした発表であったため、一般の方からも分かりやすい内容だったとの声を頂いた。質疑応答では、聴衆から多くの質問が飛び交い、和やかな雰囲気では終えることができた。本シンポジウムについての報告はうみうし通信 101 号に掲載した（椿・片山で共同執筆）。

広報にあたっては、椿氏の協力によりツイッター、Facebook、ホームページを活用し、カウントダウンコラム等を実施した。サンゴ礁のイラストとともに、今回の演者らに関係する生き物たちのコラムを掲載した。これまで以上に多くの人に関覧してもらうことができたため、財団の認知度を高めることにも貢献できた。

今回のシンポジウム開催を機会に得た若手研究者とのネットワークを維持し、今後の事業に生かしていきたいと考えている。

II. 財団の運営

本年度は、矢島代表理事のご逝去により、新体制として池田代表理事での運営がスタート。登記、内閣府への変更の届出、専門委員の委嘱、及び 30 周年記念シンポジウムの開催等、定例の基本事業の運営に加え実施した。

1. 理事会

第 1 回理事会 平成 30 年 5 月 18 日
開催場所 銀座ブロッサム中央会館
決議事項 平成 29 年度事業報告及び収支決算について
代表理事及び業務執行理事の選定
評議員会の開催について
報告事項 代表理事の職務執行の状況報告
その他の報告事項
出席等 決議に必要な出席理事の数 5 名、出席 7 名
監事の出席 1 名

第 2 回理事会 平成 31 年 3 月 12 日
開催場所 銀座ブロッサム中央会館
決議事項 平成 31 年度事業計画及び収支予算について
基本財産の処分又は除外について
2019 年度研究助成課題について
専門員の委嘱について
定時評議員会の開催について
報告事項 代表理事の職務執行の状況報告
その他の報告事項
出席等 決議に必要な出席理事の数 5 名、出席 7 名

監事の出席 2 名

2. 評議員会

第 1 回評議員会 平成 30 年 5 月 7 日

開催場所 第一ホテル東京アネックス「ラ・パランツァ」

決議事項 理事の選任について
役員報酬規程について

報告事項 代表理事矢島邦茂氏の訃報報告

出席等 決議に必要な出席評議員の数 4 名、出席 7 名

定時評議員会 平成 30 年 6 月 8 日

開催場所 銀座ブロッサム中央会館

決議事項 平成 29 年度事業報告及び収支決算の承認
任期の満了に伴う理事の選任

出席等 決議に必要な出席評議員の数 4 名、出席 8 名

第 3 回評議員会 平成 31 年 3 月 12 日

開催場所 銀座ブロッサム中央会館

決議事項 平成 31 年度事業計画及び収支予算について
基本財産の処分又は除外について

出席等 決議に必要な出席評議員の数 4 名、出席 7 名

3. 専門委員会

第 1 回専門委員会 平成 30 年 8 月 21 日

開催場所 第一ホテル

議 題 2019 年度助成課題募集要項の決定
2016-17 育成研究助成及び 2017 年度個別研究助成報告書の
評価

第 2 回専門委員会 平成 31 年 2 月 20 日

開催場所 T K P 新橋カンファレンスセンター

議 題 2019 年度 研究助成課題の審査
理事会への推薦課題の決定

4. 事務的事項

1. 役員人事

4 月 6 日代表理事逝去（矢島邦茂氏）

5 月 7 日評議員会にて、池田友之、田中正則の理事選任。現理事 10 名。

5 月 18 日理事会にて、代表理事、業務執行理事の選定。

2. 登記
上記の登記を行った。
3. 内閣府への提出と届出
平成 30 年
5 月 30 日 代表理事及び理事の「変更の届出」の電子申請実施。
6 月 25 日 平成 29 年度「事業報告等の提出」の電子申請実施。
7 月 17 日 上記事業報告等についての「修正提出書」の電子申請実施。。
平成 31 年
4 月 4 日 平成 31 年度「事業計画書等に係る提出書」の電子申請実施。
4. 公告（情報公開）
HP上の「平成 29 年度事業報告書」と「平成 30 年度事業計画及び収支予算」そして「役員名簿」を更新した。
5. 「広める」告知など
2018 年度研究助成の採択課題を公表した。また「うみうし通信」の紹介やイベントの告知及び「質問コーナー」への回答を載せた。テレビ番組の制作会社からの質問にも応じた。